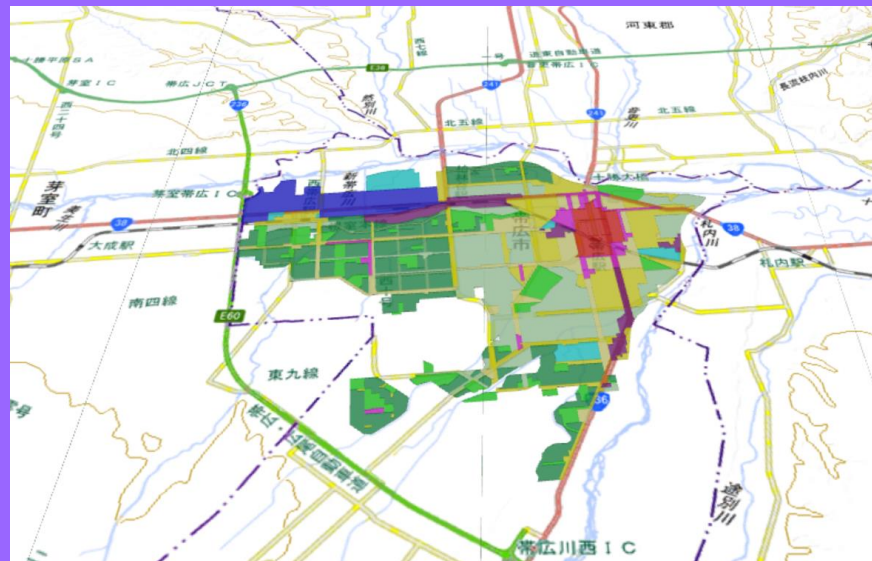


# 都市構造可視化ツールの可能性について

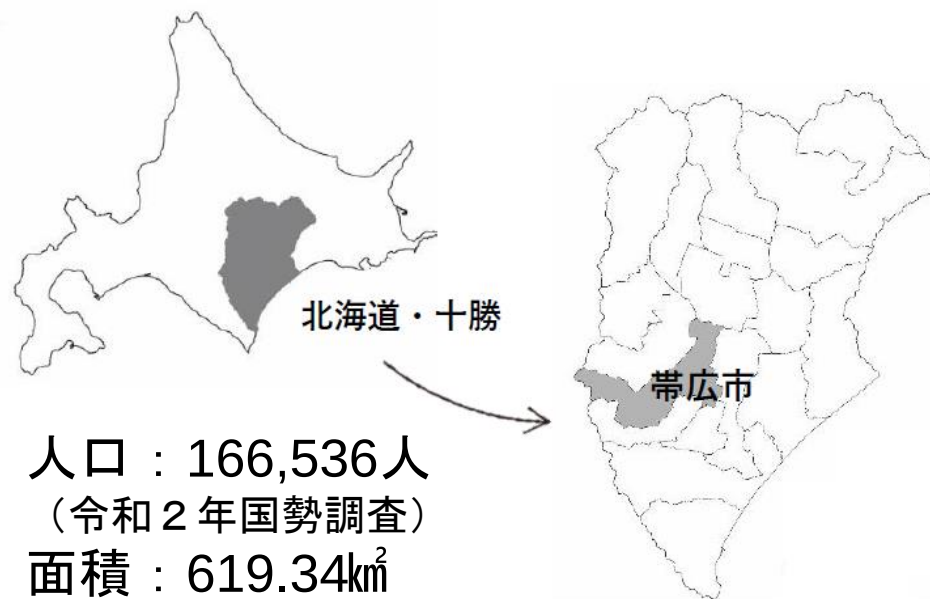


北海道 帯広市 都市環境部 都市政策課

# 1.はじめに

## 帯広市の概要

**位置：**北は大雪山系、西は日高山脈に囲まれた広大な十勝平野の中央部に位置しています。市街地は北に集中し、南は大規模畑作地帯が続いています。澄んだ青空、雄大な大地に恵まれたまちです。



人口：166,536人  
(令和2年国勢調査)  
面積：619.34km<sup>2</sup>  
(東京23区とほぼ同じ)

**産業：**農業を基幹産業とした十勝の中心都市であり、専業農家が多く、大型機械を導入した生産性の高い大規模経営を展開しています。商業やサービス業などの第3次産業も盛んで、東北海道の商業機能の集積地にもなっています。

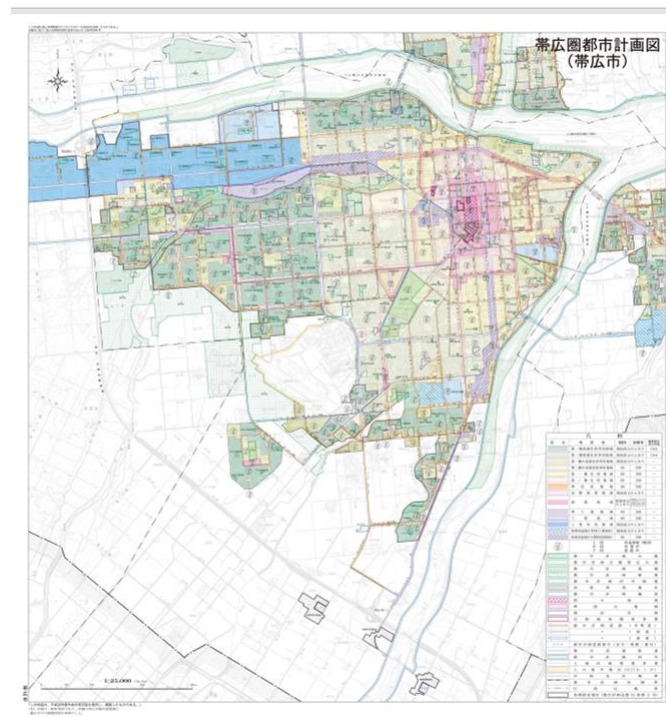
## 2. 仮説

### 都市構造可視化ツールの可能性

都市構造可視化計画のサイト上には様々な可視化データがある。これらのデータの活用の可能性を検討するにあたって、可視化データと既存データの重ね合わせによる検証が必要と考えた。

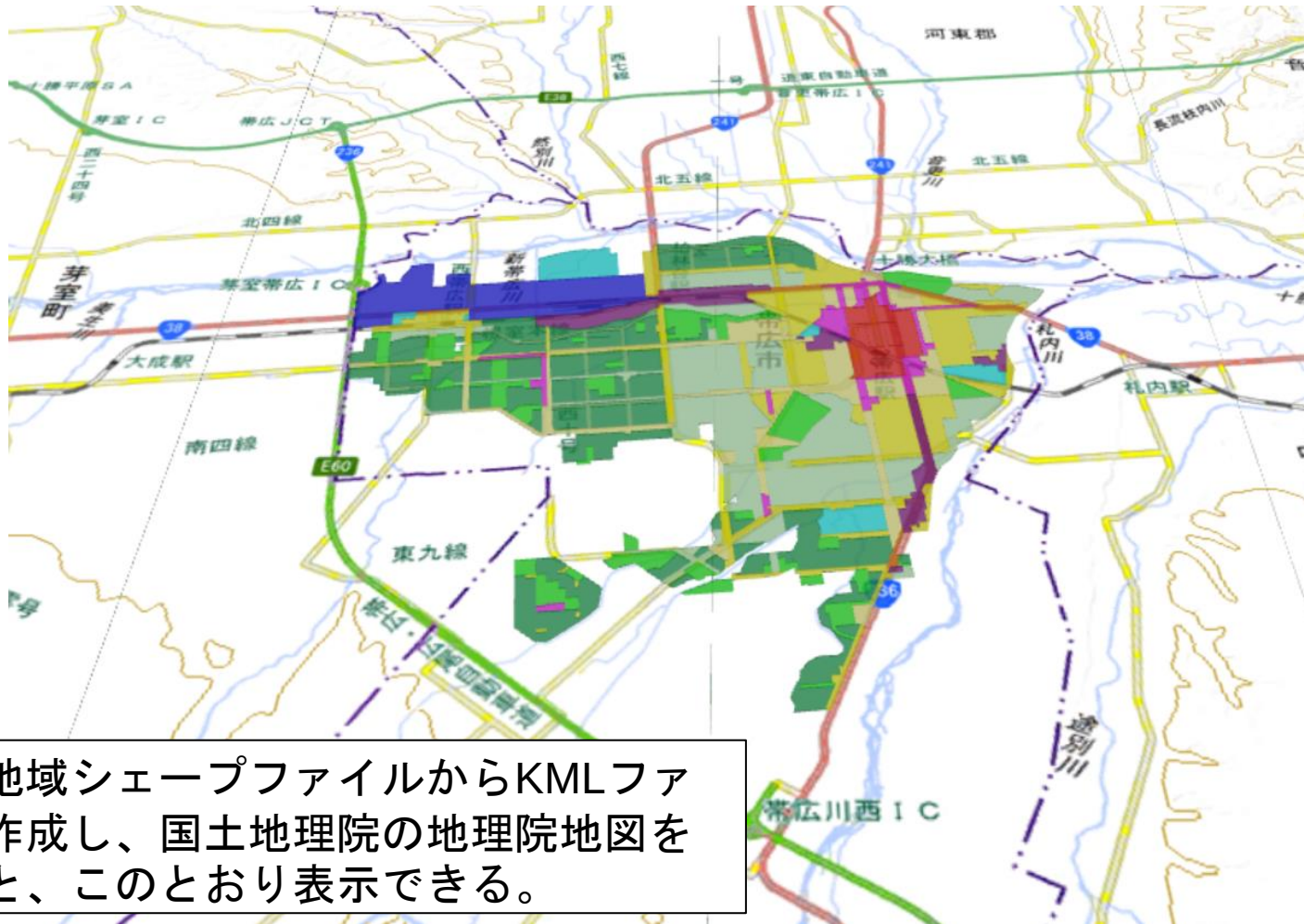
可視化サイトにある昼夜間人口比率を使用し、既存データである用途地域を重ね合わせることで住居系・商業系・工業系の用途毎に違いが出てくるものと仮説を立て、検証することとした。

### 帯広市都市計画図



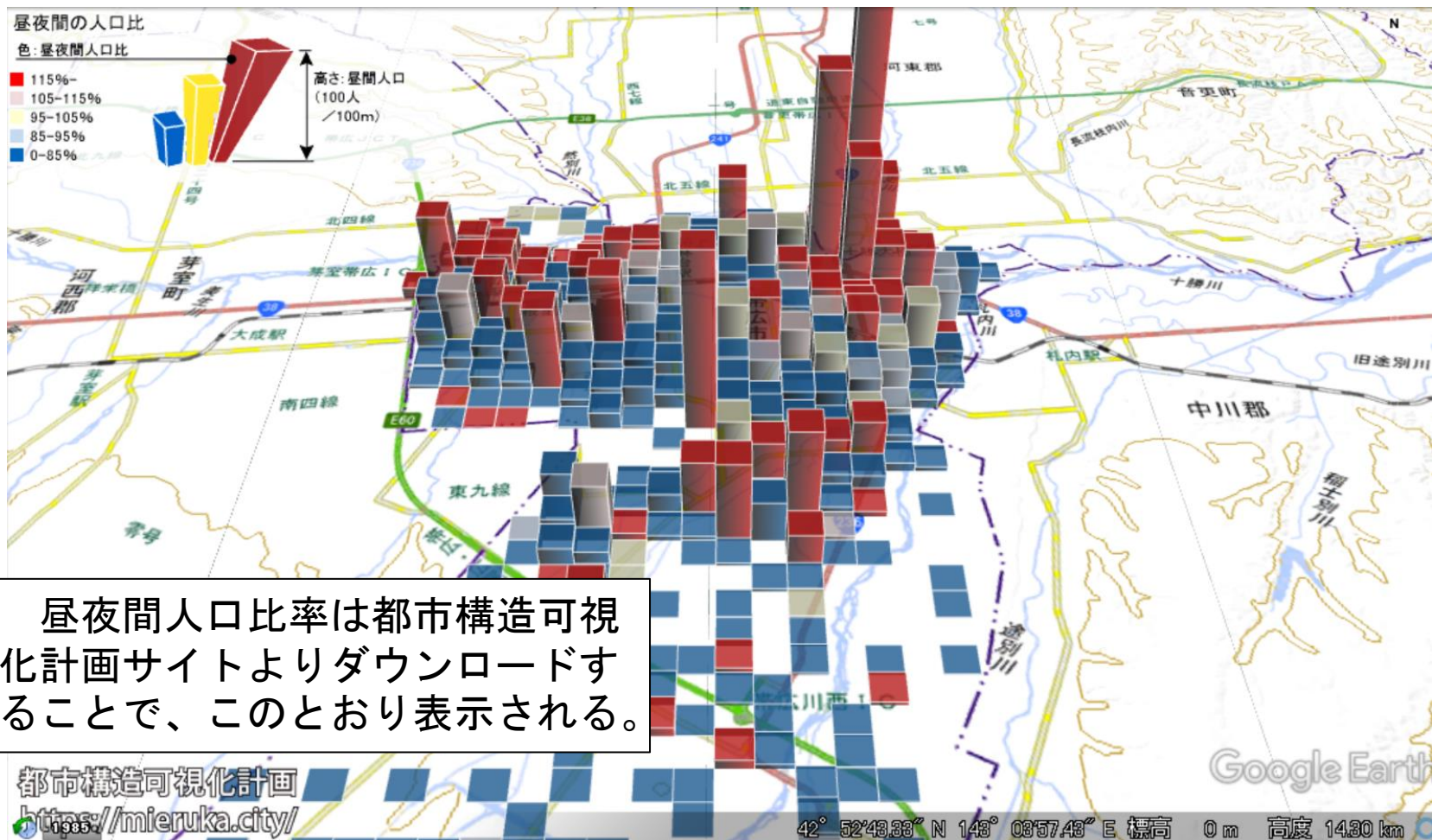
### 3. 検証

#### 用途地域のKMLデータ化



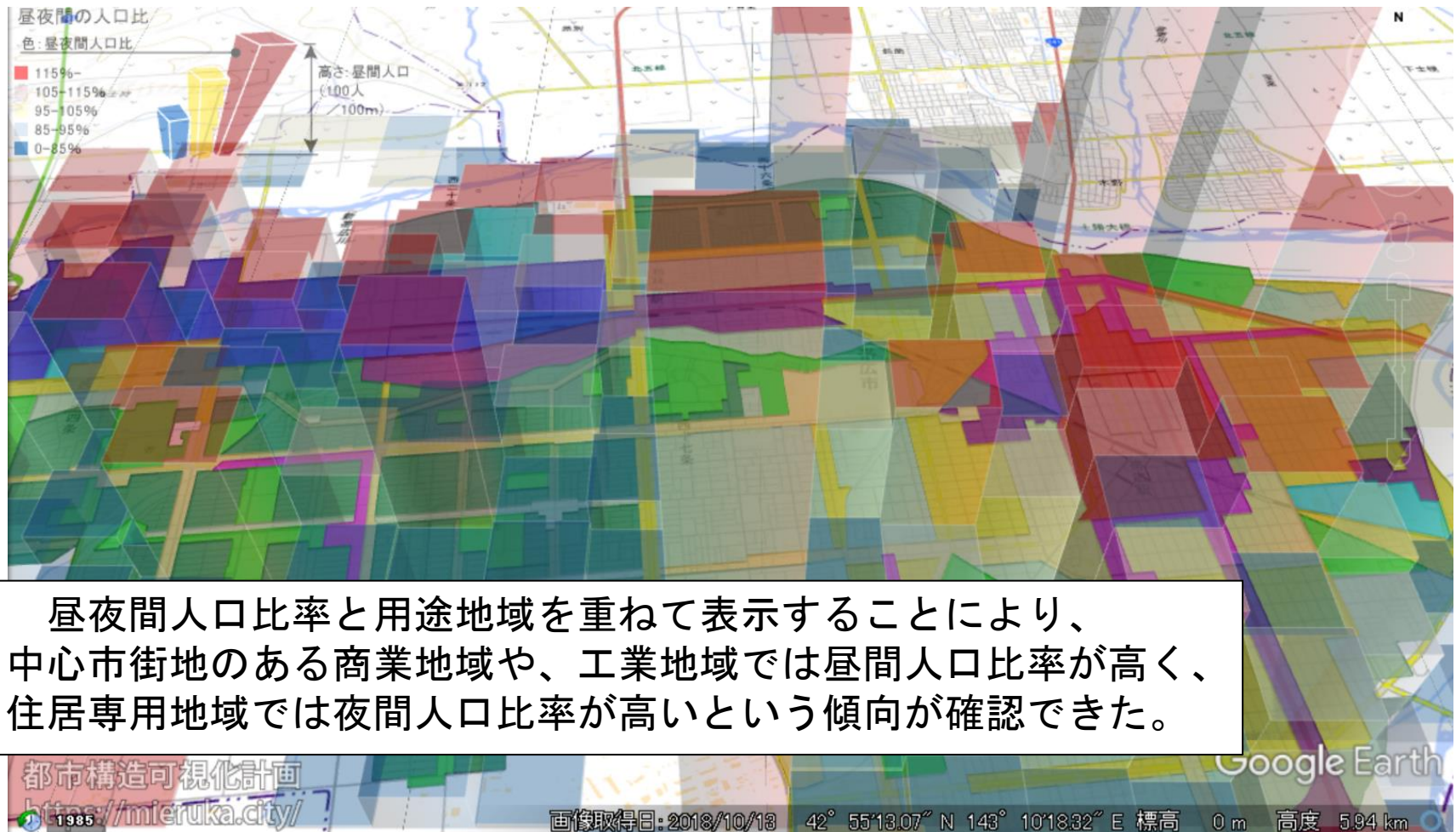
## 4. 検証

### 帯広市の昼夜間人口比率



## 5. 検証

### 用途地域と昼夜間人口比率の重ね合わせ



昼夜間人口比率と用途地域を重ねて表示することにより、中心市街地のある商業地域や、工業地域では昼間人口比率が高く、住居専用地域では夜間人口比率が高いという傾向が確認できた。

## 6.まとめ

### 都市構造可視化ツールの可能性

用途地域と昼夜間人口比率などの可視化データを重ね合わせることで、用途毎に傾向が示されるとの仮説を検証することができた。このデータは民間業者による商業施設の出店検討などに活用できると考えられる。

現在、帯広市の用途地域データは市ホームページによるPDFデータの提供のみであるが、KMLデータが提供できると、可視化データとの組み合わせにより視覚的に情報を確認できるようになるため、行政はもとより民間業者の活用が期待できる。

都市構造可視化ツールの活用は、新たな発見や具体的なイメージができることに加え、民間業者が活用できるようになることで、様々な場面へ活用の幅が広がることが考えられる。



帯広市は、基幹産業である農業を強みとした「食」をまちづくりの真ん中におき、これまで進めてきた「フードバレーとかち」をNewStageへとすすめ、高速道路延伸やゼロカーボン宣言を追い風に、十勝・帯広に新たな価値を作り出そうとしています。

帯広市は、令和4年に開拓140年・市制施行90年の記念の年を迎えました。